

聖書日課 『からし種』 2025.7.20-7.27

<p>7月20日 (日) II コリント 9章</p>	<p>「つまり、こういうことです。惜しんでわずかしか種を蒔かないものは、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです」(6節)。わたしたちが蒔くみ言葉の種は、「種を与え、パンを糧として与えて」くださる方により、「慈しみが結ぶ実を成長させて」(10節)いただける。自分の思いや力に頼るのではなく、主に信頼して、蒔き続けよう。</p>
<p>21日 (月) II コリント 10章</p>	<p>「わたしたちは肉において歩んでいますが、肉に従って戦うものではありません。わたしたちの戦いの武器は肉のものではなく、神に由来する力であって要塞も破壊するに足ります」(3・4節)。世にあるわたしたちは、肉に従って日々歩まざるをえない。しかし、世に主の福音を示し、主の平和を求める歩みは、主がくださる御力によることをいつも忘れることなく。</p>
<p>22日 (火) II コリント 11章</p>	<p>「だれかが弱っているなら、わたしは弱らないでいられるでしょうか。だれかがつまずくなら、わたしが心を燃やさないでいられるでしょうか」(29節)。自分がかかわった人々、建て上げ、あるいは強めた教会の数々、それらの一人一人、一つ一つに対して、パウロは常に心を寄せ、祈り、共に傷み、共に喜んでいる。パプテストの相互牧会の究極を示されている。</p>
<p>23日 (水) II コリント 12章</p>	<p>「すると主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」(9節)。自分の弱さを認めることが、そもそもわたしたちには難しい。しかし、その弱さにこそ発揮される主の力にわたしたちは強められて歩んでいる。</p>

聖書日課 『からし種』 2025.7.20—7.27

<p>24日 (木)</p> <p>Ⅱコリント 13章</p>	<p>「終わりに、兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます」(11節)。主はわたしたちを招かれ、共に集い、教会を建て上げるように！と示されている。心を合わせ、励まし合い、神の愛と平和を実現するために教会とわたしたちはある。</p>
<p>25日 (金)</p> <p>ガラテヤ 1章</p>	<p>「ただ彼らは、『かつて我々を迫害した者が、あの当時滅ぼそうとしていた信仰を、今は福音として告げ知らせている』と聞いて、わたしのことで神をほめたたえておりました」(23・24節)。ステファノ殉教にも立ち会っていた迫害者サウロ(尋ね求める)が、復活の主との出会いによってパウロ(小さい者)とされ、福音を宣べ伝える者に変えられた。この福音の豊かさ。</p>
<p>26日 (土)</p> <p>ガラテヤ 2章</p>	<p>「けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです」(16節)。パウロの堅い信仰の拠り所を示す力強い表明。</p>
<p>27日 (日)</p> <p>ガラテヤ 3章</p>	<p>「もはや、ユダヤ人もギリシア人もなく…男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」(28節)。この聖句を礼拝堂正面に掲げたアトランタのバプテスト教会は、「女性は教会で教えるな」という方針を出した南部バプテストを脱退して「主が招かれる誰もが集える教会」をビジョンとした。パウロの闘いは今の私たちの闘いでもある。</p>